

## 春播き草花の育て方

ここでは比較的作りやすく、用途が多い‘アスター’と‘ケイトウ’の育て方を紹介します。挑戦してみましょう。

### 1 アスター

月	3	4	5	6	7	8	9	10
7月出し	○ --- □	—————		■ ■ ■				
8月出し		○ --- □	—————		■ ■ ■			

○：播種 □：定植 ■：収穫

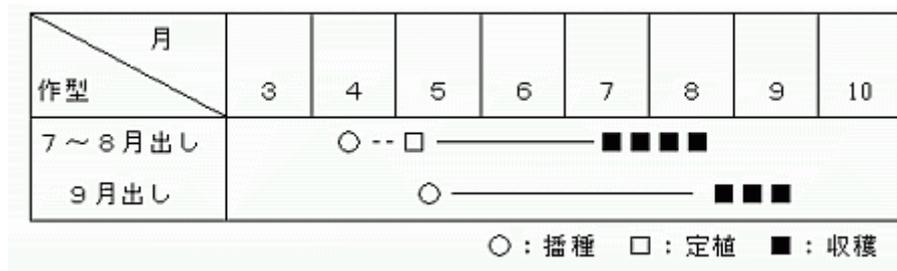
#### (1)特性

- ・花色や花形は豊富。好みに応じて品種を選ぼう。
- ・耐寒性があり暑さにも強いが、高温時の多湿は大嫌い！
- ・連作は大嫌いなので、他の品目と輪作で！

#### (2)栽培のポイント

- ・発芽適温は 15～20℃。
- ・日当たりがよく水はけのよい土壌が好み。高温時の多湿を非常に嫌うので、梅雨時期の排水対策が必須。
- ・定植は本葉3～5枚程度。老化苗になると活着が悪くなったり、品質低下の原因になるので遅れないように！
- ・水やりは、土の表面が乾いたら与える程度。乾燥には比較的強いので、湯き気味に管理しましょう。
- ・窒素が多いと、茎葉が軟弱になるので注意しましょう。目安として、基肥は緩効性肥料を1㎡あたり2～3握り(120g程度)。
- ・株間は、一般種で 20～25cm、小輪種で 15cm 程度とりましょう。
- ・芯食い虫(エゾギクトリバ)・ハモグリバエ類の被害を注意しましょう。

### 2 ケイトウ



### (1)特性

- ・トサカは種類が豊富。好みに応じて品種を選ぼう。
- ・東南アジア原産で高温多湿が好みで、寒さは苦手。
- ・移植を嫌うので、直播きかポット育苗で。

### (2)栽培のポイント

- ・発芽適温は 25℃。生育適温は 23～25℃。5月に入ってから播種が無難。
- ・日当たりがよく水はけのよい弱酸性土壌を好むが、特にこだわる必要はなし。ただし、連作をすると病気が出やすいので注意！
- ・根がまっすぐ伸びる直根性なので移植は嫌い！できれば直播きで。移植する場合は、本葉5枚までに根鉢を崩さないように。
- ・水やりは、植え付け後は土の表面が乾いたら与える程度で。根付いたらさほど必要なし。
- ・窒素が多いと、茎が太って葉ばかり茂るので注意！目安として、基肥は緩効性肥料を1㎡あたり1握り(50g程度)。前作の肥料が残っている場合は無肥料で。
- ・株間は、高性種で 15～20cm のやや密植気味、中高生種で 20～25cm、矮性種で 15cm。
- ・アブラムシやハダニの被害に注意しましょう。

[\(戻る\)](#)